

委員會報告

今回御下付ノ英國殖民地改正日英條約加入ノ
件ヲ審查スルニ日英通商航海條約第十九條ノ
規定ニ從ヒ英國殖民地ノケイコスタントノ加盟
ニ關シ彼我兩國ノ間ニ左ノ事項ヲ約定シ且ツ
今後同條ニ列記セル各殖民地ノ條約加入ヲ求
ムルニ方リテ總テ此ノ例ニ由リ承諾スヘシト
為スニ在リ

一、日英條約第一條及第三條ニ掲載スル所ノ
規定ハ日本國若ハ、、、殖民地ニ於テ商

業^〇労働者及工匠ノ移住又ハ警察並ニ公安
ニ關シ現ニ実施セラレ又ハ將來制定セラ
ルヘキ法律、勅令及ヒ規則ニ對シ何等ノ影
響ヲ及ホスコトナキコト(日米新條約第二
條第四項ニハ工匠ノ文字ナシ他ハ總テ同
様)

二十二月以前ニ通知ヲ為ストキハ何時ニ
テモ條約ヲ終了シ得ルコト(日米新條約ト
同様)

右ニ關シ當局委員ノ説明スル所ノ要点ハ此ノ

條件ハ既ニ日米條約ニ於テ規定シタル所ト畧
ホ同一ナルノミナラス從來英國殖民地ハ條約
加入ノ條件トシテ第一項ノ規定ヲ置カンコト
ヲ固執シ若シ我ニ於テ之ヲ承諾セサルトキハ
遂ニ條約ニ加入スルコトヲ肯セサルヘシ然ル
ニ殖民地ト我帝國トノ間ニ於テ向後通商上ノ
關係益發達スルハ必然ノ勢ナレハ今右ノ條件
ヲ拒テ將來無條約ノ地位ニ立タシヨリハ寧ロ
忍ニテ彼ノ要求ヲ承諾シ通商航海ノ關係ヲ
存續スルノ勝レルニ如カスト謂フニ在リ當局

委員ノ言ヲ聽取テ一理ナキニアラスト雖モ抑
日米新條約第二條第四項ノ規定ハ獨リ我國ト
ノ間ニ締結シタル條約ニシテ之レアルニアラ
ズ其ノ他彼ノ國ト各國トノ間ニ締結シタル條
約ニ於テ常ニ同様ノ規定アリ故ニ米國ノ商業
并ニ勞働者ノ移住ニ關シテ設ケル所ノ規定ハ
洋ノ東西ト人種ノ如何トノ間ハス總テ各國自民
ノ服從セザル可カラザル規定ナリ然ルニ之ニ
及ビ英國殖民地ノ今回我帝國ト約定セシト欲
スル所ノ事項ハ殖民地ノ嘗テ歐米各國トノ間

ニ約定シタルコトナキ制限ニシテ獨リ東洋人
種ニ對シテ之ヲ設ケルノ權利ヲ得ントスルニ
在リテ其結果日英新條約第一條及第三條ニ規
定シタル最惠國條款ハ之カ爲メ全ク其効ヲ失
ハサルヲ得ズ之ニ加フルニ日米條約ニスルニ
亦且ツ見ザル工匠ノ文字ヲ加フルヲ以テ殖民
地政府ヲシテ條約上當然ノ權利トシテ獨リ勞
働者ノミナラス工匠ノ移住ニ關シ如何ナル制
限ヲ設ケルコトヲ得セシムルニ至ル是レ當
ニ國家ノ休戚ニ在リ其ノ宜キヲ得ザルニ至リ

ラス第一經濟上ニ於テ甚シキ不利ヲ受ケサル
ヲ得ス此項在濠洲我帝國領事ヨリ外務省ニ達
シタル電報ニ依レハニエー、ジーントニ於テ
ハ亞細亞人移住制限法ハ既ニ上下兩院ヲ通過
シマスヨニ此ニ於テハ有色人種移住ニ關スル
法案ハ議會ヲ通過シ又ニエー、サケスウエルズ
ニ於テハ既ニ同種ノ法律ヲ公布シタリト未タ
其詳細ヲ知ルニ由ナキモ各殖民地政府、我帝
國臣民ニ對スル感情ノ程度亦推シテ知ルハキ
ナリ故ニ彼我商業上ノ關係ニ重ヲ置キ忍ンテ

彼等ノ請求ヲ容レント欲スルモ條件ノ第一ニ
於テ「商業」ナル文字ノ現在スル以上ハ殖民地政
府ハ今後如何ナル法令ヲ設ケ我臣民ノ商業ヲ
妨害セザルヲ保スヘカヲサレノミナラヌ又
條約上我ハ之ニ反抗スルノ權利ヲ有セザル
ヘシ

又本條約ハ彼我對等ノ規定ヲリト雖モ移住及
商業等ノ關係ハ既ニ在テ其ノ大部ヲ占メ彼ニ
在テハ一小部分ニ過キザルカ故ニ該條件ニ由
リテ生ズル不利ハ殆ト全ク我ニ歸スルモノト

謂之曰、一且英國殖民地ニ許
 與スルニ、山等條約ヲ以テモ、他日佛西其他殖
 民地ノ利ハ、其ノ殖民地ニ對シテ同
 一ノ新條約ヲ爲スルニ、固ヨリ之ヲ拒絕ス
 ルノ辭無カルハ、ハキナリ
 以上ノ理由ニ依リ、本條約ハ暫ク締結ヲ得ル當
 局ニ於テ、政府ニ仍テ商議セラルベシトシ
 望ム
 方委員會ノ結果ヲ報告ス
 明治三十年二月十六日

委員長

樞密顧問官 尾崎忠治

委員

樞密顧問官 伯耆副島種臣

樞密顧問官 子爵田中不三郎

樞密顧問官 子爵仁禮景範

樞密顧問官 細川潤次郎

樞密院議長 伯爵黑田清隆殿

三十年三月二十日議

臣等英國殖民地ニ於テ日英新條約加入ニ關スル件
諮詢ノ命ヲ賜ヒ之ヲ審査スル^議其要旨^ニ日英通商航海條約
第十九條ノ規定ニ從ヒ英國殖民地^地クイニスラントノ加盟

ニ關シ彼我兩國ノ間ニ左ノ事項ヲ約定シ且ツ
今後同條ニ列記セル各殖民地ノ條約加入ヲ求
ムルニ方リテ總テ此ノ例ニ由リ承諾スヘシト
為スニ在リ

一 日英條約第一條及第三條ニ掲載スル所ノ
規定ハ日英兩國若ハ………殖民地ニ於テ

業労働者及工匠ノ移住又ハ警察並ニ公安
ニ關シ現ニ実施セラレ又ハ將來制定セラ
ルハキ法律勅令及ヒ規則ニ對シ何等ノ影
響ヲ及ホスコトナキコト(日米新條約第二
條第四項ニハ工匠ノ文字ナシ他ハ總テ同
様)

三 十二月以前ニ通知ヲ為ストキハ何時ニ
テモ條約ヲ終了シ得ルコト(日米新條約ト

同様

右ニ關シ當由者ノ説明スル所ノ要點ハ此ノ

條件ハ既ニ日米條約ニ於テ規定シタル所ト畧
ホ同一ナルノミナラス從來英國殖民地ハ條約
加入ノ條件トシテ第一項ノ規定ヲ置カンコト
ヲ固執シ若シ我ニ於テ之ヲ承諾セサルトキハ
遂ニ條約ニ加入スルコトヲ肯セサルヘシ然ル
ニ殖民地ト我帝國トノ間ニ於テ向後通商上ノ
關係益發達スルハ必然ノ勢ナレハ今右ノ條件
ヲ拒テ將來無條約ノ地位ニ立タンヨリハ寧ロ
忍ンテ彼レノ要求ヲ承諾シ通商航海ノ關係ヲ
存續スルノ勝レルニ如カスト謂フニ在リ當局

委員ノ言ハ處敢テ一理ナキニアラスト雖モ抑
日米新條約第二條第四項ノ規定ハ獨リ我國ト
ノ間ニ締結シタル條約ニノミ之シアルニアラ
ス其ノ他彼ノ國ト各國トノ間ニ締結シタル條
約ニ於テ常ニ同様ノ規定アリ故ニ米國カ商業
并ニ勞働者ノ移住ニ關シテ設クル所ノ規定ハ
洋ノ東西ト人種ノ如何トヲ問ハス總テ各國臣民
ノ服從セサル可カラサル規定ナリ然ルニ之ニ
反シ英國殖民地ノ今回我帝國ト約定セシト欲
スル所ノ事項ハ殖民地ノ曾テ歐米各國トノ間

ニ約定シタルコトナキ制限ニシテ獨リ東洋人
種ニ對シテ之ヲ設クルノ權利ヲ得ントスルニ
在リテ其結果日英新條約第一條及第三條ニ規
定シタル最惠國條款ハ之カ為メ全ク其効ヲ失
ハサルヲ得ス之ニ加フルニ日米條約ニスラ猶
ホ且ツ見サル「工匠」ノ文字ヲ加フルヲ以テ殖民
地政府ヲシテ條約上當然ノ權利トシテ獨リ勞
働者ノミナラス工匠ノ移住ニ關シ如何ナル制
限ヲモ設クルコトヲ得セシムルニ至ル是レ當
ニ國家ノ体面ニ在テ其ノ宜キヲ得サルノミナ

ラス第一經濟上ニ於テ甚シキ不利ヲ受ケサル
ヲ得ス此頃在濠洲我帝國領事ヨリ外務省ニ達
シタル電報ニ依レハ^二五^一、^二エ^一、^二ジ^一、^二ラ^一、^二ド^一ニ於テ
ハ亞細亞人移住制限法ハ既ニ上下兩院ヲ通過
シ^一タスマニヤニ於テハ有色人種移住ニ關スル
法案ハ議會ヲ通過シ又^二ユ^一、^二サ^一、^二ウ^一、^二エ^一、^二ル^一以
ニ於テハ既ニ同種ノ法律ヲ公布シタリト未タ
其詳細ヲ知ルニ由ナキモ各殖民地政府、我帝
國臣民ニ對スル感情ノ程度亦推シテ知ルヘキ
ナリ故ニ彼我商業上ノ關係ニ重ヲ置キ忍ンテ

彼等ノ請求ヲ容レント欲スルモ條件ノ第一ニ
於テ「商業ナル文字ノ現在スル以上ハ殖民地政
府ハ今後如何ナル法令ヲ設ケ我臣民ノ商業ヲ
妨害セサルヲ保スヘカラサルノミナラヌ又
條約上我ハ之ニ反抗スルノ權利ヲ有セサル
ヘシ

又本條約ハ彼我對等ノ規定ナリト雖モ移住及
商業等ノ關係ハ我ニ在テ其ノ大部ヲ占メ彼ニ
在テハ一小部分ニ過キサルカ故ニ該條件ニ由
リテ生スル不利ハ殆ト全ク我ニ歸スルモノト

謂ハサルヲ得ス且ツ若シ一旦英國殖民地ニ許
與スルニ此等條件ヲ以テセハ他日佛西其他殖
民地ヲ有スル締盟國ノ其ノ殖民地ニ對シテ同
一ノ請求ヲ為スアラハ我ハ固ヨリ之ヲ拒絶ス
ルノ辭無カルヘキナリ

然リト雖モ本案ノ件ニ付テハ爾來當局者ニ於
テ屢彼國ト協商ヲ試ミ條件ノ修正ヲナサント
欲シタルニ拘ハラズ今日ニ至テハ已ニ熟議ノ
望ミナキニ依リ彼トノ請議ヲ容レテ條約ヲ締
結スルノ外ナカルヘシ若夫レ殖民地ニ於テ我
臣民ニ對シテ大ニ不利ノ處置ヲ為スニ至ラハ此
時ニ至テ條約ヲ廢止シテ可ナリ猶ホ始ヨリ無
條約國ノ地位ニ立ツニ勝ルハキナリ因テ本案
ヲ可決ニ謹テ上奏ニ更ニ
聖明ノ採擇ヲ仰ク

審査報告

謹に今回御下付ノ開港港則に審査スルニ開港
港内取締ニ關シ慶應年間及明治ノ初ニ當リ彼
我ノ間ニ約定シタル規定アリト雖モ特ニ函館
及大坂ノ二港ニ止マリ其ノ他ノ諸港ニ關シテ
ハ一ノ規定ナク偶ニ視察規則又ハ水上警察規程
等ノ中ニ散見スル條項ヲ應用シテ取締ヲ為シ
来リタルモ爾來各港船舶ノ出入日ニ漸ク多ク
加ハ到底此等不備ノ方法ニ依ル能ハサルニ至
リタルヲ以テ七八年以前ヨリ各國外交官トシ